



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3315 号 2016.10.23 発行

夢舞台、力の限り 「希望郷いわて大会」開幕



岩手日報 2016年10月22日
北海道を先頭に入場行進する選手団。選手・役員ら約5500人が集う第16回全国障害者スポーツ大会の幕が開けた=22日午前10時すぎ、北上総合運動公園陸上競技場

第16回全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」は22日、北上市相去町の北上総合運動公園陸上競技場で開会式を行い、障害者アスリートたちの熱戦が幕を開けた。

開会式は皇太子さまが出席され、北海道を先頭に北から南へ都道府県と20指定都市の選手団約3400人が入場行進。本県選手団はボウリングの三島弘

太郎選手（盛岡・しらたき工房）を旗手に約380人が堂々と進み、ひときわ大きな拍手を浴びた。国体から引き継いだ炬火（きょか）がともされ、ともに陸上の太田順一（県警）、高橋明日香（盛岡聴覚支援学校）の両選手が選手宣誓を行った。

大会は24日まで3日間。陸上、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング、バスケットボール、車いすバスケットボール、ソフトボール、グランドソフトボール、フットベースボール、バレーボール、サッカーの13正式競技と四つのオープン競技を行う。

心込め祝福の花束 北上、大会入賞者に贈呈へ 選手に贈る花束を作る参加者=21日、北上市芳町・北上地区合同庁舎

岩手日報 2016年10月22日

日本フラワーデザイナー協会（東京都港区、河合透理事長）は21日、北上市芳町の県北上地区合同庁舎で、全国障害者スポーツ大会の入賞者に配る花束の製作を始めた。参加者は真心を込めて色鮮やかな花束に仕上げ、大会成功を願った。

同日は県内外から約95人が参加。黄や赤の菊やカーネーションなどの茎の長さをそろえ、ラッピングを施して約1200個作った。

花束は各会場でビクトリーブーケとして贈呈。作業は22、23日も行い、延べ2



64人が約3千個作る。

皇太子さま、陸上競技を観戦 全国障害者スポーツ大会 朝日新聞 2016年10月22日

岩手県を訪問中の皇太子さまは22日、北上市で開かれた第16回全国障害者スポーツ大会の陸上競技を観戦した。競走（800メートル）や立ち幅跳びなどを見て、選手がゴールしたり大会新記録が出たりすると拍手でたたえた。



全国障害者スポーツ大会の陸上競技を観戦する皇太子さま＝22日午後、岩手県北上市、迫和義撮影



その後、奥州市に移動し、視覚障害のある選手が金属球の入ったボール

を、音を頼りに打ち合うサウンドテーブルテニスや卓球を観戦した。大会の運営や選手団のサポートなどをするボランティアに「何か心がけている点がありますか」などと質問。筆記で情報を伝える役割を担う菊池幸子さん（54）には「どういったところが難しいですか。どうぞお体に気をつけて仕事をさせていただきます」と声をかけた。

津川、成田が優勝＝障害者スポーツ大会

時事通信 2016年10月22日

全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」は22日、岩手県北上市の北上総合運動公園陸上競技場で開会式が行われ、県内各地で競技が始まった。

競泳ではリオデジャネイロ・パラリンピック男子100メートル背泳ぎ（知的障害）銅メダルの津川拓也（大阪市）が同青年（20～35歳）25メートル背泳ぎ（知的障害）に出場し、13秒95の大会新で優勝。同じくリオ代表の成田真由美（川崎市）も女子の2部（40歳以上）25メートル背泳ぎ（肢体障害）を大会新で制した。

車いすバスケットボールでは地元岩手に勝った愛知の他、長崎、千葉が4強入りした。

大会は24日まで陸上、水泳など13競技と四つの公開競技が実施される。

“カープ女子”展覧会で会見も「スタジアムが呼んでる」 スポニチ 2016年10月22日

女優の東ちづる（56）が21日、東京・国立新美術館で開幕した展覧会「ここから－アート・デザイン・障害を考える3日間－」で会見した。

障がい者がデザインした雑貨や洋服の展示の企画アドバイザーを務めており「多様性のある社会をつくっていくきっかけになれば」と笑顔。広島県出身でプロ野球広島の大ファン。この日も日本シリーズに向けて、カープカラーの赤がメインの装い。スタジアムで観戦した試合は全勝しているといい「展覧会もあるけど、スタジアムが呼んでる気もする。ハラハラですよ」と興奮していた。

発達障害者の受験、配慮進まず 九州7県公立高、措置は十数件

西日本新聞 2016年10月23日

九州7県の2016年度県立高校入試で、発達障害（未受診を含む）の受験生に時間延長などの特別措置が取られたのは、全志願者約8万5千人のうち十数件（約0.02%）にとどまることが西日本新聞の取材で分かった。発達障害の可能性のある中学3年生は3%程度の割合でいるとされ、ほとんどが申請せずに受験したとみられる。入試要項に配

慮規定を明記していない県がある一方、受験に不利に働くと懸念して申請しない保護者も多いようだ。

九州各県の教育委員会によると、16年度入試での措置数は、福岡5、佐賀4、長崎1の計10件。他の4県は申請がごく少数で「本人の特定につながる」などとして非公表だった。14、15年度も同様の傾向だった。

各県教委によると、出身中学を通じて申請があれば、時間延長や別室受験、解答用紙の拡大、漢字に読み仮名を振るなど、必要な措置を検討するという。このうち、福岡、佐賀、大分、鹿児島各県は、入試要項に「障害がある受検者等への配慮」などと明記。熊本県は「身体に障がいがある受検者」と記しており、長崎、宮崎両県は記述がない。

文部科学省によると、発達障害の可能性がある中学3年生は40人学級に1人程度と推計される。だが、入試で特別措置を取った公立高は、全国約3500校のうち12年度93校▽13年度171校▽14年度177校▽15年度126校と3%程度にとどまる。ある県教委の担当者は「申請がないと対応できない。周知が行き届いていない面もあるのではないかと分析する。

あえて申請を見送る保護者もいる。目に見えない障害のため同級生の親から苦情を受けたり、教師の無理解から怒られてばかりだったり、誤解や偏見に悩んだ経験を持つ当事者や家族が少なくない。福岡県の父親は「かえって受験に不利になるのでは」として申請をしなかったという。

今年4月には障害者差別解消法が施行され、公立高の入試や授業で障害の特性に即した「合理的配慮」が義務化された。熊本県教委は「発達障害にも既に対応している」として入試要項を変更する予定はないとするが、長崎県教委は17年度から改める。宮崎県教委は「今後検討する」としている。

中学が申請後押しを

日本LD学会前理事長の上野一彦東京学芸大名誉教授（発達臨床心理学）の話 発達障害者は特定分野に秀でた人もいる。万能型を求める現在の入試制度では才能の芽を摘み、国家の損失につながりかねない。高校は義務教育ではないとはいえ、大学入試センター試験では配慮されており、高校入試でも十分な措置が必要だ。小中学校での支援を手厚くして、申請を後押しするべきだ。

【ワードBOX】発達障害

自閉症やアスペルガー症候群、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）などの総称。集中力が続かない、意思疎通が苦手、物事を計画的に進められないなど、人によって特性が異なる。脳機能障害が原因とされるが、詳しいメカニズムは分かっていない。2012年の文部科学省調査では、通常学級に通う小中学生で6・5%、中学3年は3・2%に可能性があるとされた。

九州各県教委、文部科学省への取材を基に作成。医師の診断書の有無は問わない。全国の数字は学校数

	2014年度	2015年度	2016年度
福岡県	4	7	5
佐賀県	3	3	4
長崎県	1	1	1
熊本県	数が少ないため「個人が特定される」などの理由で非公表		
大分県	数が少ないため「個人が特定される」などの理由で非公表		
宮崎県	数が少ないため「個人が特定される」などの理由で非公表		
鹿児島県	数が少ないため「個人が特定される」などの理由で非公表		
全国	177	126	未集計

障害者の芸術作品などを紹介 東京で展覧会

NHKニュース 2016年10月22日

障害者の芸術作品や商品化された障害者アートを紹介する展覧会が、東京・六本木で開催されています。

この展覧会は4年後に東京オリンピック・パラリンピックを控え、障害者への理解を深めてもらおうと文化庁が開きました。

知的障害や精神疾患がある作家の芸術作品のコーナーには12人の作品が展示され、このうち、神奈川県横溝さやかさんの「東京2020に向けて」という絵画は、世界旅行をする2人の主人公がオリンピックが行われる東京の街を訪れた様子が色鮮やかに表現さ

れています。

また、アスリートたちが使う最先端の義足や競技用の車いすを紹介するコーナーでは、実際に車いすに乗ることができます。

さらに商品化された障害者アートのコーナーもあり、個性的で表現豊かな洋服や雑貨が展示され、一部はその場で購入することもできます。

展覧会を監修した美術評論家の前山裕司さんは「アートは健常者と変わらずすばらしく、デザインはカッコいいものばかりです。2020年に向けて障害者との壁を取り払ってほしい」と話していました。



この展覧会は東京・六本木の国立新美術館で23日まで開かれ、入場は無料です。



ベリーダンスで心のケア 認知症やがん患者、即興で踊れる手軽さと芸術による癒やしの力に着目 産経新聞 2016年10月22日
ベリーダンスと心のケアについて講演する入沢仁美さん＝10月17日、京都市下京区（小野木康雄撮影）

認知症やがん患者の心のケアに「ベリーダンス」を取り入れようと、兵庫医科大学先端医学研究所（細胞・遺伝子治療部門）の研究生、入沢仁美さん（31）＝兵庫県芦屋市＝が活動を始めた。衣装や小道具で女性美を強調した官能的なダンスというイメージが強いが、老若男女を問わずだれでも即興で踊れるという手軽さや自由さに着目。芸術による癒やしの力を使ったケアとして、活用方法を模索している。

闘病…法曹から医療へ

入沢さんの専門は病院管理学。医療倫理や医事法などの幅広い分野で、医師らによる診療を危機管理の観点から補佐する学問だ。自身も法科大学院出身という異色の経歴を持つ。

一時は法曹を目指していたが、5年前に大病を患い、入退院を繰り返しながら約1年間の闘病生活を送った。治療方針に疑問を抱いても、病院からは明確な説明がない。不信感とともに「家族に迷惑をかけている」という思いも募った。

医療現場にコミュニケーションが足りないのではないかと。自分と同じような悩み、苦しみを抱える患者は多いのではないかと。そうした問題意識が、医療の道で研究を志す原動力となった。

ベリーダンスは趣味として習っていたが、教室の指導者が高齢者施設を慰問していることがヒントになった。入所者が笑顔で手をたたいたり体を揺らしたりするという話を聞き、意思疎通の難しい認知症患者や終末期のがん患者が相手でも「言葉に頼らず、心のケアができる」と考えた。

「日本生命倫理学会」で知り合った村岡潔・佛教大学教授（医学哲学）に誘われ、今年4月から、仏教に基づくケアの在り方を考える「佛教大学ビハラ研究会」に参加。古来は大地や自然を感じながら裸足で踊られてきたベリーダンスが、仏教の瞑想（めいそう）と似た点があることにも気づいたという。

「お迎えは舞姫に」

今月17日には、同研究会が主催した佛教大四条センター（京都市下京区）の市民講座で初めて講演。「医療現場の課題は、診療報酬の点数がつかないケアが



軽視されること」と語り、仲間たちとベリーダンスを披露したり受講生にも即興で踊ってもらったりして、気持ちが解放される楽しさを体感してもらった。

受講生の井幡乃武子さん（78）＝京都府大山崎町＝は「これまでは見ているだけだったが、日本の歌謡曲とはテンポが違って、心が躍る」。アンケートでは「お迎えのときは舞姫に出迎えてもらいたいと思った」「将来が明るい気になった」などの声が寄せられたという。

入沢さんは来年4月から医学研究科の博士課程後期に進学し、医学博士号の取得を目指す。「学問と芸術をつなぎ、患者一人一人の人生を大切にしたいよりよいケアができるようになれば」。ベリーダンスを趣味から研究へと広げることを目標にしている。

ベリーダンス 中東で発展したダンススタイルの総称。一説には世界で最も古い踊りの一つとされ、1893年の米シカゴ万博で名付けられた。ベリー（belly）は腹部の意味で、全身の筋肉を使って腰で独特のリズムを刻む。情感豊かな女性固有のダンスと思われがちだが、海外では古くから老若男女が関係なく踊ってきた歴史があり、著名な男性ダンサーもいる。日本では10年ほど前にブームとなり、エクササイズにも取り入れられた。

支援学校生、就職フォーラムで情報共有

佐賀新聞 2016年10月22日



企業での取り組みについて事例報告などを行った特別支援学校就労支援フォーラム＝佐賀市天神のアバンセ

特別支援学校の生徒の就職をサポートしようと県教育委員会は18日、佐賀市天神のアバンセで「県特別支援学校就労支援フォーラム」を開いた。県内60企業が集まり、就職に向けた生徒の取り組みや障害者雇用制度、企業による先進事例の取り組みについて情報共有した。

障害がある生徒の職業教育と就労支援を学校と連携して行っている「ヤマト運輸」と「昭和フード」が事例発表した。ヤマト運輸ではドライバーと同乗して荷物の

配達を行い、担当者はその働きぶりについて「初めはゆっくりだが、正確に早く行える」と話した。昭和フードではハンバーガー製造や清掃業務を行い、「遅刻や欠勤がなく、真摯（しんし）に仕事に取り組んでいる」と評価した。

この日は佐賀労働局が障害者雇用における多様な助成金制度について説明した。県内の特別支援学校9校が日々の活動を紹介し、制作した椅子や机の展示販売も行った。

創立40年 挑戦続ける 富山大付属特別支援学校

中日新聞 2016年10月23日



創立40周年を祝い、児童生徒を代表して喜びの言葉を述べる高等部3年の塩原隆史さん＝富山市五艘の富山大付属特別支援学校で

富山大付属特別支援学校（富山市五艘）の創立四十周年記念式典が二十二日、同校であり、在校生や保護者ら約二百三十人が節目を祝った。

竹村哲校長は式辞で「小さな学校だが、互いに支え合って生き生きと暮らせる社会、障害者が目を輝かせて暮らせる社会、心のバリアフリーの実現を目指していく」とあいさつ。児童生徒を代表して高等部三年の塩原隆史さんが「先輩が築いてきた伝統をこれからも大切にして一人一人がいろいろなことに挑戦し、これまで以上にすてきな学校をつくっていききたい」と喜びの言葉を述べた。

式典後には創立四十周年をテーマにした記念学習発表会もあり、児童生徒がステージで、日ごろの学習の成果を演劇や踊りなどで披露した。図工や美術の時間に作った絵や立体作

品の展示や、生徒たちが作ったコースターなどを販売する模擬店もあった。

同校は一九七六（昭和五十一）年に富山大教育学部附属養護学校として誕生し、二〇〇七年に現在の名称に変わった。小、中、高等学部があり、これまでに計三百四人が卒業した。（山中正義）

「旧奈良監獄」 国の重要文化財指定へ

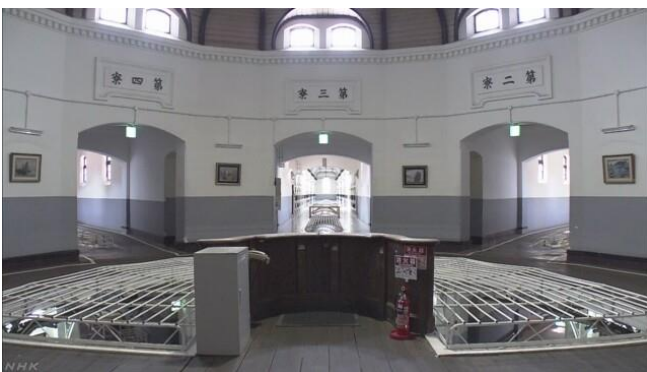
NHKニュース 2016年10月21日



明治時代に建てられた「五大監獄」の一つで、赤れんが造りの建物が残る奈良市の「旧奈良監獄」、現在の奈良少年刑務所が歴史的な価値が高いとして国の重要文化財に指定されることになりました。

これは21日、国の文化審議会が文部科学大臣に答申しました。

奈良市の「旧奈良監獄」は明治41年、明治政府が国際的に通用する水準の監獄を作ろうと全国5か所に建設した「五大監獄」の一つで、現在は奈良少年刑務所として使われています。刑務所としては全国で現存する最も古い建物で、敷地を取り囲む塀や建物はロマネスクを基調とした重厚な赤れんがの壁で統一されています。また、受刑者が生活する5つの収容棟は看守所や事務所を中心に放射状に配置され、人の出入りを確認しやすい機能性と建築としての美しさを両立させています。



答申では当時の監獄の特徴が残る貴重な建物として評価され、今回、国の重要文化財に指定されることになりました。

奈良少年刑務所は施設の老朽化などのため今年度で閉鎖が決まっています、20日の時点でおおよそ260人いる受刑者はすべてほかの刑務所に移る予定です。法務省は今後、施設の運営権を民間の事業者へ売却し、ホテルや博物館などへの再利用を目指していて36億円と見込まれている改修費用の半額を事業者へ負担してもらうことにしています。

<いわき>復興は「自分事」同志増やす

河北新報 2016年10月23日

古滝屋のスタッフと語り合う里見さん＝いわき市湯本温泉

◎いわき湯本温泉のホテル経営・里見さん／被災地案内3000人超す

「知って、感じて、考えて」。いわき市湯本温泉のホテル経営者、里見喜生さん（48）がこう呼び掛け、2011年以来、東京電力福島第1原発事故の被災地を案内するスタディーツアーの参加者が3000人を超えた。被災地の内外を隔てる風化は年々進むが、「何も終わらぬ現実を『自分事』と受け止め、伝えてくれる人を増やしたい」と仕事の傍ら被災地に通う。



湯本温泉で1695（元禄8）年創業の古滝屋の16代目。ホテル、旅館の多くは原発事故後、原発や除染の現場作業員らの借り上げ宿舎となったが、里見さんは12年夏まで休館。NPO法人「ふよう土2100」を設立し、被災地の自宅を離れて避難先で孤立する障害児、家族の居場所づくりと運営に取り組んだ。

スタディーツアーは古滝屋をマイクロバスで出発して北上し、住民が避難中の富岡町夜ノ森地区を目指す。雑草に覆われた無人の街で記録写真を撮り、線量計で放射線の数値の変化を確かめ、道中では昨年9月の避難指示解除後も人の姿がない檜葉町なども見る。

始まりは原発事故直後の11年4月。支援物資を持参した遠来の友人らを、実情を見てもらおうと市内の津波被災地に案内し続けた。その中で「きちんとカンパを得て継続的な活動にすべきだ」と助言を受け、自らのNPOが主催するツアーとして一人3000円の参加費をもらって、障害児支援にも充てることにした。

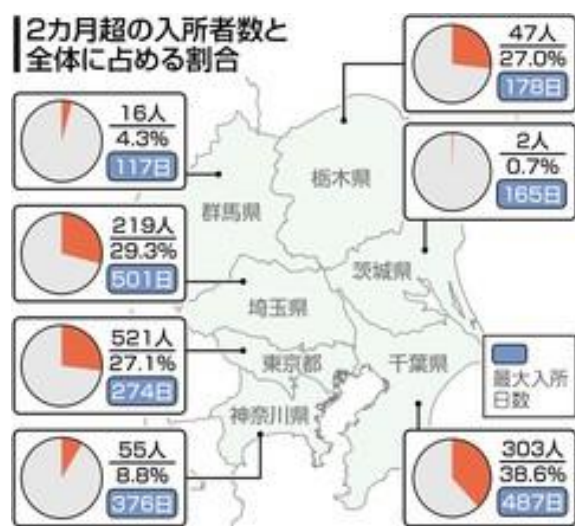
縁ができた支援者や交流サイトを通じてツアーを広め、参加者はこれまで沖縄など全国から3000人余り。ゼミ合宿など首都圏の大学生が7割を占める。

「自分が出会った被災地の人たちの思いや現状を話し、『電気をつくってきた街も電気を消費する街も同じ日本です』『原発事故という歴史に立ち会っていることを体感し、終わらぬ現実を記録写真とともに伝えてほしい』と訴えている」

参加が1人や2人でも歓迎し「その方が深く語り合える」。埼玉県から来た年配者は地元に戻ってツアーの体験を話し、町内会有志を引率して再び参加してくれた。「ニュースで分かったつもりでいたが、被災地を見て心の底から悲しい」と感想を語った人もいる。

本業の古滝屋の宿泊客は現在も震災前の4割ほど。風化、風評の壁はまだ厚いが、「被災地の復興を『自分事』としてつながってくれる人を増やしていきたい」と里見さんは意気込む。（編集委員・寺島英弥）

長引く一時保護 1600人超 14年度7都県 本紙調査



東京新聞 2016年10月23日
緊急的に子どもを保護する児童相談所の附属機関「一時保護所」に、法定期間の2カ月を超えて入所していた子どもは2014年度、首都圏の1都6県で計1672人いたことが本紙の調査で分かった。1年半近くも入所していた子どももいた。虐待などで保護される子は増えているのに、養護施設などの受け皿整備が追いついていないことなどが背景にある。保護所にいる間、学校に通えないなどの制約もあり、抜本的な改善が求められる。（木原育子）

児童相談所は都道府県と政令市、希望する中核市が設置することができる。本紙は九月、相談所がある首都圏の一都六県と六

市にアンケートを実施した。

東京、埼玉、千葉、栃木の一都三県と五市で、保護日数が二カ月を超えた子どもの割合が全体の二割を超えていた。相模原市が42・7%で最大で、38・6%の千葉県が続いた。

一一～一四年度の最大保護日数を尋ねたところ、一年以上入所していた子どもがいたのは八縣市。埼玉県と横浜、相模原、横須賀の三市は、五百日超の子どもがいた。最長は横浜市の五百七十二日だった。

入所が長期化する原因として、虐待があつて保護したにもかかわらず、保護者が「手元

に置きたい」と、児童養護施設への入所を拒むなどの複雑な事例が増えているほか、児童養護施設がいっぱいで、行き先が定まらないまま留め置かれる事例も多い。

一時保護所は外出も制限され、長期化による入所者の精神的負担は大きい。これまで、国や自治体の統計では、平均入所日数は公開されてきたが、最大入所日数は非公開だった。一四年度、首都圏で平均日数が最長なのは横須賀市（五十九日）で、いずれの自治体も法定期間を超えていない。一時保護所には一日で退所する子どももいるため、平均日数からは浮かんでこない、最悪の事例が見過ごされてきた側面がある。

東京都児童相談所の元職員で明星大福祉実践学科の藤井常文教授は「外部評価を取り入れるなど、一時保護所に『他者の目』を入れて、施設のあり方を抜本的に見直していくべきだ。現場の職員も疲弊しており、社会的養護の一翼を担う施設とは言い難い現状だ」と指摘している。

J R新山下駅前に巨大壁画誕生

河北新報 2016年10月23日



巨大壁画の原案となった切り子。山元町特産のイチゴ巨大壁画の原案とな



った切り子。合戦原遺跡の線刻画

巨大壁画の原案となった切り子。民謡「坂元おけさ」の踊り手

山元町のJ R常磐線新山下駅前に高さ2メートル、長さが33メートルもある巨大壁画が完成した。地域再生や鎮魂の願いが込められ、23日のまちびらきに合わせお披露目される。

新山下駅前に開店を予定しているスーパー「フレスコキクチ」が、障害者のアート作品を手掛ける町内のNPO法人「ポラリス」に制作を依頼した。ポラリスは利用者や住民と地域の歴史や特産品を学ぶワークショップを開き、壁画の原案となる100種類以上の切り子を作った。



切り子は、町内の合戦原遺跡で発見された7～8世紀の線刻画や仙台藩の唐船番所跡のほか、若者がサーフィンをする様子なども描き、町の過去、現在、未来を表現した。

切り子のレイアウトといった仕上げは、京都在住のデザイナー福井恵子さんが担当した。壁画は「HAPPYやまのもと」と名付けられた。

ポラリスの田口ひろみ代表（53）は「東日本大震災で甚大な被害を受け、風景が一変してしまった町の魅力を壁画を通じて再発見してほしい」と話す。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

